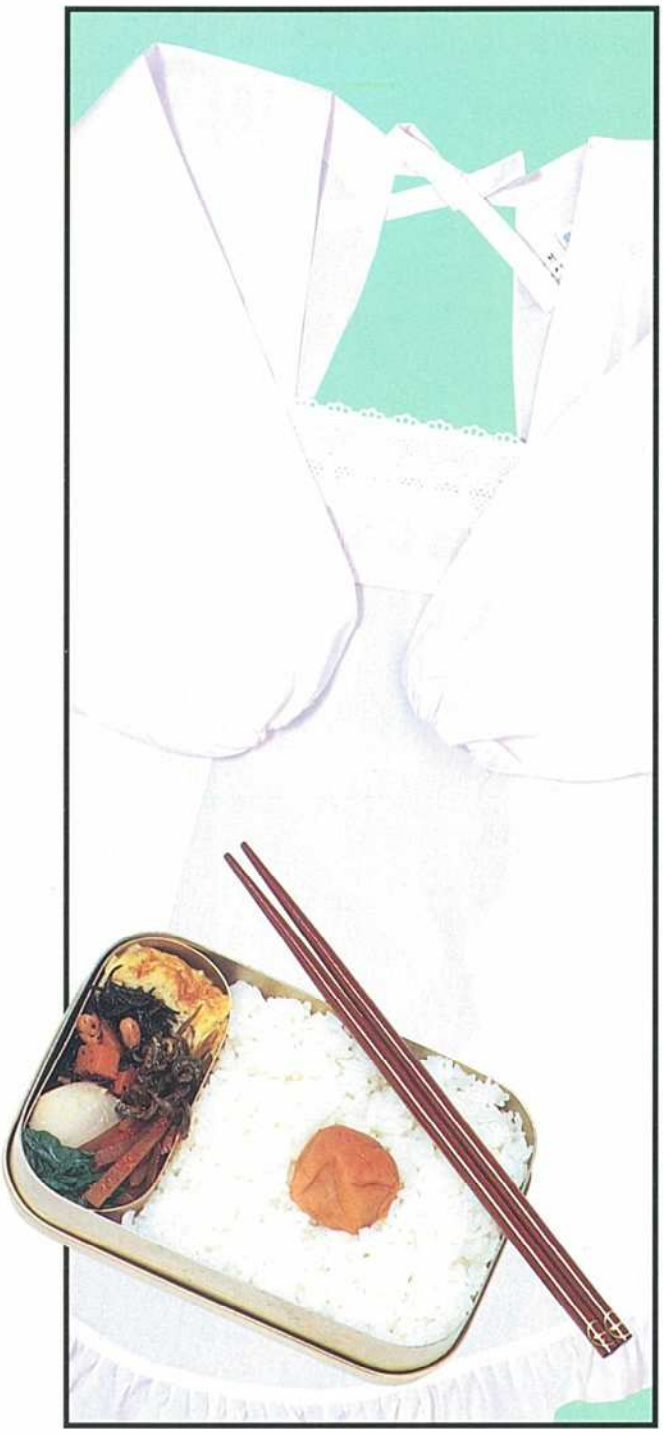
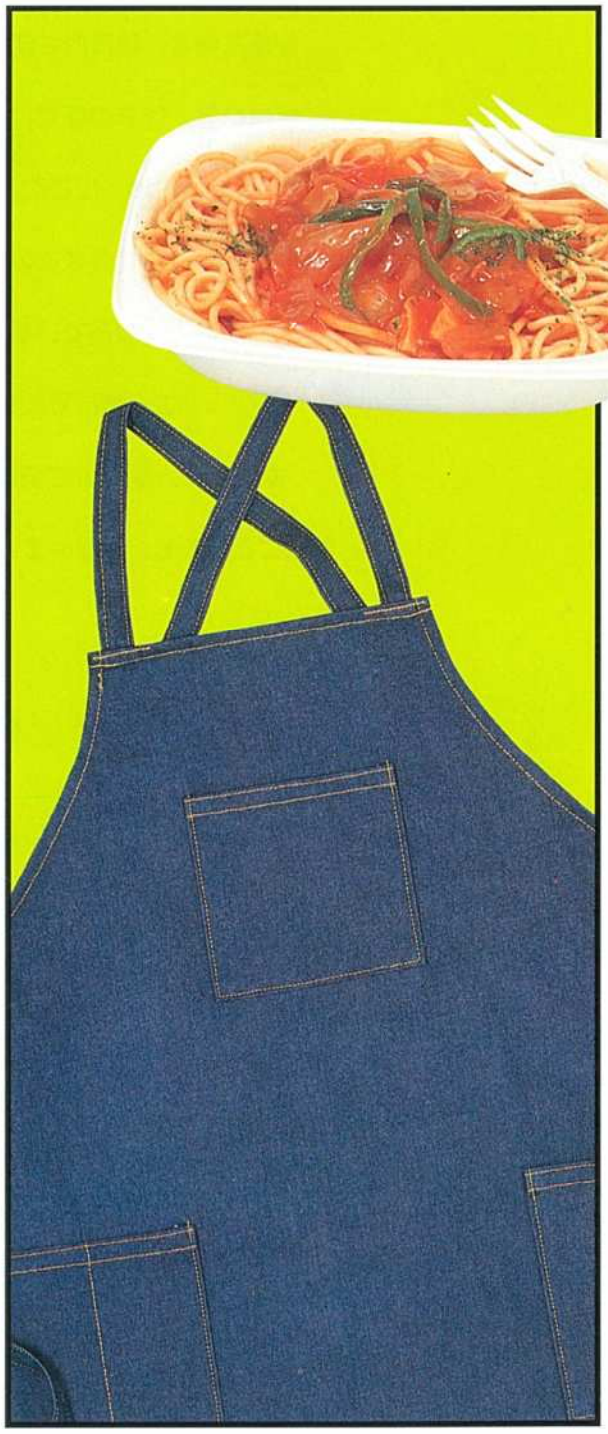
Azalea

アゼリア



特集　変わる・変える



東京都北区・8号・平成6年3月

割烹着からエプロンへ仕事着が変わり、

女性の役割だった弁当づくりも、

コンビニエンスストアが代行してくれます。

女性も男性も社会で働く、

時代の要求がここにも見えます。

仕事を持ち、経済的に自立した女性が増えました。

とはいえ、仕事の場で、社会で、そして家庭内で、

女性たちが、にこにこ笑顔で暮らしていける

そんな、社会参加のための環境づくりが、

進んでいるでしょうか。

ご一緒に考えていきましょう。

女性が、人間として楽しく生きていける社会は、

男性にとっても、生きやすい社会に違いないのですから。

特集：変わる・変える

男性の生き方・女性の働き方　立教大学　大森真紀 ―― 1

座談会　変わる・変える ―― 2

うちの場合・よその場合　あなたの家庭はあなた色 ―― 6

男女平等教育　十条台小学校の取り組み ―― 8

女性教育委員２名誕生 ―― 8

〈生活シミュレーション〉

親の介護をする最後の世代の私から

子の介護を受けない最初の世代となる私へのメッセージ ―― 10

〈聞き書き自分史〉

身体の中に残るものを学んでいただきたい

閑崎ひさ女さん（赤羽西2丁目）―― 13

〈インフォメーション〉 ―― 14

特集 変わる・変える

男性の生き方・女性の働き方

立教大学　大森　真紀

長引く不況下でのキーワードは「リストラ（再構築）」、これには中高年男性ホワイトカラーの雇用調整という痛みを伴う。もっとも、日本の大企業においては、今回の不況に限らず、中高年の女性は常に「リストラ」されてきたことからすれば、「今さら、騒ぐな」と皮肉のひとつも言ってみたくなる。女性の「リストラ」の根拠は育児や介護を中心とする家庭責任であり、男性の「リストラ」が重視されるのは、家族を養うという経済的な責任を担っているからであることはいうまでもない。

しかし、もし妻に十分な経済力があれば、夫も会社にしがみつかずに済むのではないかとは考えられないだろうか。他方で、男性の多くが「家族のために働いている」のは事実としても、その必要がなかったら、男性は働くのをやめるだろうか。育児や介護が片手間でできることだとは決して思わないが、仕事が男性にとって単なる経済的な報酬以上のものがあるとすれば、それは女性にとっても同じだとはいえないのだろうか。

現実には、経済的な必要がきわめて大きな比重を占めている。男女の働く環境も生活状況も厳しい。だが、ひとりひとりにとって、より自由な選択を可能にすることこそが「ゆたかさ」であるとしたら、性別役割分業の枠を取り払うことは、女性のみならず、男性のためでもある。

男性の生き方を見直し、女性の働き方を点検する「リストラ」こそが、今後の高齢社会を乗り切るためにも、必要とされている。

座談会

変わる・変える

■出席者

大森　真紀（立教大学経済学部教授）

奥野　陽子（王子6丁目）

片桐　俊一（田端新町3丁目）

堀内　美智子（赤羽西6丁目）

女性の意識が変化してきた

大森　お忙しいところをお集まり頂きましてありがとうございます。

今日は、職業とか地域とか家庭などの場で、女性がどのように変わってきたのかということを、それぞれのお立場から具体的にお話いただきながら進めていきたいと思います。そして座談会のテーマが『変わる、変える』ということですので、『変える』が後ろにくるという意味で、これからの展望にも話をつなげていければいいなと思っています。ご自分と北区のかかわりについても、是非一言お願いします。

私自身は、89年に北区の女性行動計画策定のために設置された婦人問題懇話会のメンバーとして北区にかかわりました。その時に、「アゼリア」第1号が発行されたわけです。

最初に片桐さんから、自己紹介も兼ねて、今お感じのこと、率直におっしゃっていただけますか。

片桐　私は、生まれも育ちも北区です。今、住まいは別の所ですが会社はずっと田端新町で、金属の販売と加工をやっております。従業員の中に女性は20名ほどおりますので後ほどその話もしたいと思います。

私と北区のかかわりは、一昨年、青年会議所の委員を致しましたことと、区の産業活性化のための担い手千人会議の委員を発足当時からつとめています。また、昨年12月には『アゼリアプラン推進区民会議』のメンバーにも加えていただいております。

奥野　私は女性対象のファッションの仕事をずっとしております。仕事を手離せない、ということで結婚しても子育てしながら、夫の転勤がありましても、ずっと仕事を続けてきました。当然子供と接する時間が少なかったわけですが、6年ほど前、子供が大病をしまして「あと数ヵ月の命です」といわれたんです。その時、「今まで自分は家族に相当犠牲を強いてきたんじゃないか」と思い当たりまして、それ以後はこれまでの仕事の範囲を少しずつせばめて、それでもこの北区でずっと続けているんです。あの時の子供は、今高校生になっています。

奥野　陽子さん

大森　ファッション関係の仕事っていろいろありますが、どういう方面の？

奥野　芝居の衣装関係をやってい

堀内 美智子さん

ましたが、子供の病気を機に主婦を対象にしたファッションコーディネイターや講演会などを小規模にやっています。家庭半分、仕事半分といった形でずっと働こうと思っているんです。

堀内　私は大学病院の耳鼻科で、「言語治療士」として難聴のお子さんの言語訓練をやっていました。夫の留学でカナダへ行っていた間は仕事を中断して専業主婦でした。帰ってきてからも、夫は『ぜひ家にいてほしい』といいましたが、でも私は仕事がしたくて仕方がありませんでした。

子供の学校でPTA広報の仕事をしたことをきっかけに「アゼリア」の編集のお手伝いをすることになりました。

大学の研究生として病院で週に3日働いていますが、学生ですからお給料がありません。学位をとったら職場を探すつもりです。ただこういう形での生活は、家庭も半人前、仕事場でも半人前と見られがちです。私はそれぞれに一生懸命やっているつもりですが、残念な思いをすることも多いのです。

大森　今お話いただいたお二人の女性は、仕事の内容は違うけれど共通点がありましたよね。奥野さんは「家庭半分仕事半分」で、堀内さんは「半人前」とおっしゃいましたけど。お二人が仕事だけじゃなくて、家庭をもって、地域の中で何をするかを考えながら、どうやっていくかの調整を自分なりにやってこられたという点で共通していると思うのですが……。

日本の社会が豊かになってきましたから、いろいろなところに仕事をするチャンスがありますよね。それにお給料をとるだけが仕事ではないという意味でボランティアも含めると、女性が家庭のことも大事だけれど、それだけじゃなくて、何かやっていきたい、という「意識」があちこちに生まれてきたというのはやはり大きな変化だと思うんです。

企業の扉をたたいてみたら

大森　ただ、それを今度は企業として従業員を雇用する場合には、やはり立場上違ってくると思いますが……。先程片桐さんが女性の従業員のことで、後でお話してくださるということでしたので経営者側からみてのお話を少ししていただけますか？

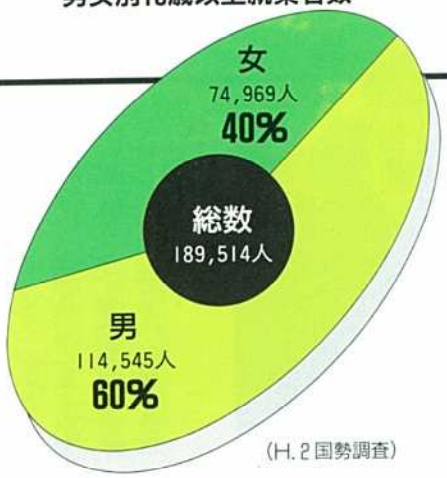
片桐　企業というのは、基本的には男性も女性も能力があって、会社に貢献していただければあくまでも平等なんですね。ただ、さっきもお二人の女性がいわれましたが、結婚されて子供ができると当然家庭にウエイトを置きますよね。ところが企業は常に100%の貢献を求める所ですから、女性が家庭を持った時だけ貢献度が半分とか1／3とかになるのは非常に困るわけです。

片桐　俊一さん

これを逆に男性の立場からいうと、妻が子供を生んで家庭に入った時に自分が稼がないと家族が食えないから一生懸命働くわけで、それを企業側からみると100%能力を出しているということになるんですね。

だから、働きながら子供を育て

■北区の
男女別15歳以上就業者数



（H.2国勢調査）

るという環境が整っていれば、女性、男性ということにあまり意識はしません。

以前、うちの会社でもこんなことがあったんですよ。会社の建物とか設備はみんな男性を対象に造られているんですね。工場の場合は、仕事を終えた後、皆シャワーを浴びて着替えて帰るんですが、男しかいないことで設計されているんです。

そこへ昨年、工場で人員募集をしたら、女性が応募してきたんです。うちの工場に女性が受けにきたというのは初めてでしたし、非常に優秀な女性でしたから採用を決めかけたんですよ。そうしましたら、着替える場所がないとか、シャワーが困るんじゃないかとか、とてもささいなことが問題になりましてね。

奥野　結局その女性はどうなったんですか。

片桐　不採用でしたね。これなんかは、差別じゃないんですよね。男女平等といっても全部一緒というわけにはいかないから「男女の区別」というところに問題があったわけで。

堀内　企業がそのために会社の設備を変えるというところまではいかなかったんですか？

片桐　ええ。単純なことなんですけれど、男性と女性を区別するがゆえに会社にコストがかかること自体が、結果的に差別になっている。この点私自身も非常に勉強させられましたね。

堀内　今まで男性にしか対応できないでいた企業が、こういったことで女性も受け入れる対応をするようになるとしたら、その女性は不採用になったけれど一石を投じたということで意味があったんでしょうね。

奥野　それもやっぱり大きな変化につながると思いますけど。それに優秀な女性でしたら企業としては損失ですものね。

大森　今のお話と同じような例が建設業や物流の関係でも出てきていますね。結局今まで男性しかいないことを前提に作られた仕組みの中へ、わずかでも女性が入って来ざるを得なくなったために起こる問題なんですね。これから、高齢化がすぐ目の前ですから、当然若年労働力が不足する、だから女性を使おう、と考えた業界としては意識して対応していくはずですよね。時間はかかるかもしれませんが、いずれ大きな変化につながると思いますよ。

女性が働く時
越えていくハードル

堀内　そうなってくると、今度はそこへ入っていく女性の資質が問われるようになりますよね、当然。

奥野　今の社会は女性が働く場所なり隙間なりは探せばいくらでもあると思いますよ。それを自分で開拓していかなきゃと思いますね。女の人は自分自身の能力を高めていくことで、自分を開発して、それを企業に買ってもらう。男性だから女性だからというのではなく、この人だから使う。この人のこのアイデアだから採用するという選択のされ方が大事だと思います。

堀内　確かにそうですね。そういった形で私も社会へどんどん出ていこうとすると先程からの家庭のところへ戻るわけなんです。子どものことなとか、親の介護とか。

片桐　今の件ですがね、企業の場合、男が家庭の問題で休ませてく

れとか、早引きさせてくれというと怒られるんですよ。(笑い)「そのぐらいのことで会社休むな！」と言えるんですよ、こちらも。ところがね女性にそれ言われると「どうぞお帰りください」となるんですね。不思議ですね、これ。

大森 真紀さん

大森　だからそれは本人と周りの受け止め方の問題との組合せから起きてくることで、高齢化がもっと進んで親の介護の問題が深刻になってくると、男性の「仕事と家庭」の比重に対する考え方も変わってくると思いますね。こういう女性の問題といわれていることが、実はその裏側で男性の問題になっていると私はいつも思っているんです。

　親の介護と同様、子育てについてはどうでしょう、出生率もとうとう1・50%を割りましたよね。女性が核家族の中で24時間全く子どもとだけ過ごしている。そして、子どもの方も親以外の大人と関係なく過ごすことって非人間的な環境だと思いますよ。そんな中でいい子育てなんかできないと思いますね。女性がたった1人で引き受けるのは余りに重すぎますよね。

奥野　子どもを育てるってことは、学校ご近所、地域を含めて皆で育てるということで、私たち大人が日頃からいい関係を作っておけばそれができると思います。

片桐　皆で育てようという気持ちを社会全体が持っていくということじゃないですか?自分の問題として考えるなら、家庭の中も同じだと思いますね。

大森　出生率の低下の裏返しが高齢化ですから、女性の生き方がどう変わってきて、その中で男性との仕事の分担がどう変わってきたかを見るほうが分かりやすいですよね。

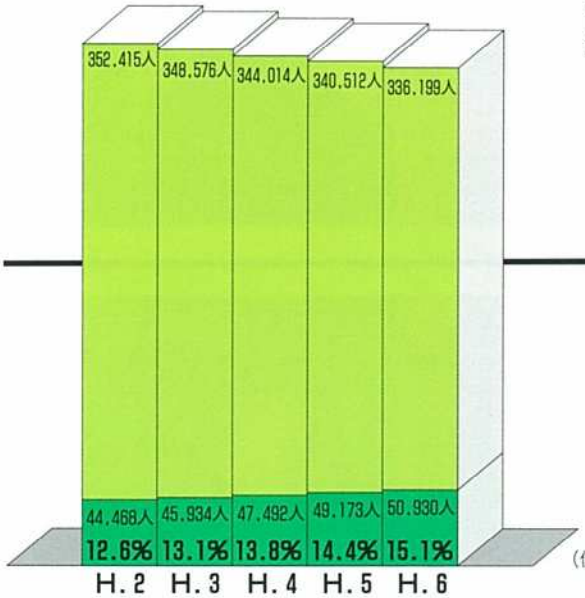
堀内　家庭の中での男性ということでみると、今の社会のやり方を通していけば定年を迎えるお父さんの姿っていうのは歴然としているんですよね。あんなに頑張ってくれたお父さんさえもぬれ落葉とかいわれる場面、いくつもありますよね。結局、経済的な面だけでなく自分のことは自分でするという独立した人間をつくるための教育っていうんでしょうか、意識が必要ですよね。

大森　ある部分ではとてもいいことが、少し状況が変わるとひっくり返っちゃう、そういう一番上にいるのが男性だと思う。そういう意味からいうと女性の方がそう簡単にはひっくり返らないですよね。ただ最終的に意識の問題にたどりつくとすれば、そこで行政が担う役割っていうものがでてきますよね。その意味で、この情報誌「アゼリア」という雑誌が一つの手段としてあると思うんです。それぞれの状況の変化の中で相応しい役割を果たしていってほしいと思っています。

　皆さんからいろいろなお話を出していただきましたが、必ずしも結論めいたことを申し上げなくてもいい座談会なので、これで終わりたいと思います。本日はありがとうございました。

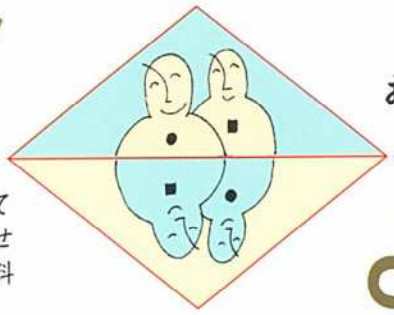
■北区高齢者人口推移

(65歳以上の高齢者)



(住民基本台帳　各年1月1日)

うちの場合



あなたの家庭はあなた色

よその場合

4人の区民の方に、それぞれの家庭について語っていただきました。先の座談会と合わせて、家庭の中の役割意識について考える材料にして頂けたらと思います。

2人で補いあって生きていく

田島　加代子さん
43歳（神谷1丁目）
マンガ原作者・小説家

「収入が多い方が働いて、少ない方がその分、家事を分担するというふうになるといいんですけど」

マニュアルさえあって、だんどりがつけてあれば（実は、そこまでがたいへんだと思うのですが）何でもいやがらずにやってくれる夫と12歳と6歳のお子さんのいる田島さん。

少女のような柔らかな笑顔の中から、ポンポンと元気よく飛び出してくるお話に、自分たちの家庭を「協同作業」の中で作っていきたいという思いが伝わってきます。ただし、仕事が暇な時にはよく手伝ってくれる夫も、今は忙しくてなかなか家事の方まで手がまわらない様子。

「パート程度の仕事なら子どもを保育園にいれるのはやめてく

食事は全部ぼくが作っているんです

植村　宜公さん
67歳（西ケ丘3丁目）
テーオーシー保育園　園長

陸軍の経理学校出身。堂々たる体躯。

厳格な男尊女卑の信奉者だったらどう話を進めればいいんだろう!!というこちらの心配をよそに、何と植村さんは家では食事を作り、保育園では七百本ものタクアンを漬けてしまうスーパー園長さんだったのです。

植村さんをお訪ねしたのは、この保育園に保父さんがいるからです。

子育てに父親が必要なように、保育の場に保父さんがいるのはとても意味のあることだと思います。他の保育園にあまりみかけないにもかかわらず、保父さんを採用した植村さんの決断力にとても魅かれるものを感じました。

現代の家族についておうかがい

大切なものを見守り続けたい

小田原　淑子さん
37歳（西ケ丘1丁目）
主　婦

小田原さんは区民としてアゼリアの編集に参加している一人です。内輪の人にインタビューするのはどうかしらと迷ったのですが、彼女の行動がいつも前向きで、働く場や意志がないのではなく、「主婦」を選んでいるのだという姿勢がとてもはっきりしているので、ぜひ、お話をうかがいたいと思いました。

まずはご家族について。

「外の仕事は夫に任せて、家の中のことは私がやります。精神的なことはちょうど半々という感じです。子どもとの関わりについては、それが子どものためというより、自分がみんなといたいから。夫を含めてみんなが気持ちよく過ごせるようにと思っています。ゆとりを持っていられる今の生活が一番

家族って、お互い困った時に打ち明けられる関係ができていればいいんじゃないかな

佐藤　佐喜子さん
39歳（王子本町1丁目）
北区役所区民施設課長

区役所の営繕課（所轄の工事現場で働く仕事）の紅一点として14年間勤められた後、昨年6人目の女性課長になられた方です。

こちらは、いったいどんなキャリアウーマンが現われるのかとドキドキしていたのですが、案に違い、実物はとってもきさくな、暖かい雰囲気の方でワイワイと楽しくお話をうかがうことができました。

夫は、「初めに家族ありきの人なんですよ。何をするにも家族いっしょがいい」

妻は、「心の中にお互いに対する絆があればいいと思います。別にいっしょにいなくても、話をしたいなと思う時にお互いの存在があればいい。一人の時間も大事にしたい」

れ」という夫の反対を押し切って始めた仕事ですが「子どもが割といい子に育ってくれたし、送り迎えの時、父親同志の交流もあって結果的にはよかったと思います」

「お食事に招かれた先で、若い世代のお父さんたちが、楽しそうに家事をこなし、嬉々として手料理を披露して下さるのがとてもすてきだ」と思いつつ、「私が夫にあれやって、これやってと頼む様子を見て『かわいそう』と言う女性」の発言にいたく傷ついてしまう。

揺れ動く気持ちを押さえて、「やっぱり私が収入を増やすことです」と言い切る田島さんの家庭が、和やかで生き生きとしたものになりますように。

したところ

「やっぱりね、良い悪いの問題ではなしに、その状況が今の生活に一番ベターであるという選択を両方でする時代だと思いますね。」

「割り切ることの難しい多様化した時代ですからね、『選択する力』が未来への鍵です。親としてここをどう育てていくかが問われていると思いますよ」

家族制度というつっかえ棒をなくした現代社会で、核家族のかかえる問題に正面から取り組みながら「もうひとつの家庭としての保育園」をめざす植村さん。タクアンをポリポリと噛みくだく、心も体も丈夫な子どもたちをたくさん育てて下さい。

ぜいたくかな……」

将来は。

「国立博物館の説明員のような、年齢に関わりなく、自分の興味(週に一、二度は図書館に通って熱帯雨林について勉強を続けていらっしゃるのです)を生かせる仕事をしたいと思います。そのためにも、子どもたちが自分の生活をきちんとできるようにしておきたいのです」

働かないことは甘えや怠慢ではなく、生き方の選択肢の一つだと決めて積極的に行動する小田原さんの姿に、いつもほれぼれしています。

それで、日曜日のたびに口論が始まるらしいのです。

開口一番に飛び出した言葉が、「一応、近隣の方から見れば非常に仲の良い家族ということになっています」でしたから、口論の中身もおして知るべしですが、「ほんとに仲が悪いと喧嘩しないんだなと子どもたちも感じている」程度には、喧々ごうごうとしたものだろうなと想像して、ついニタリ。

子煩悩で庭作りの上手な夫と、悪妻を演出できる自立した妻の作る、とってもおもしろそうなご家族だと拝察致しました。

男女平等教育

十条台小学校の取り組み

十条台小学校は平成3・4年度に東京都男女平等教育推進校に指定されました。2年間の研究期間を終えた後も引き続き男女平等教育を進めています。どのような変化があったでしょうか。今回は十条台小学校の渡部淳子校長先生にお話をうかがいました。

男女が互いに認め合う人間関係の創造をめざして

推進校に指定された当初、教師や児童、保護者の意識は、「体力を使う仕事は男子に、保健委員や一年生の面倒は女子に」「女子は制約が多いので次に生まれ変わるなら男子になりたい」、「ピンクや赤は女の色だから僕は使わない」、「ピアノを習っていても女みたいと言われるから秘密にする」などでした。そこで、一年目は研究活動の立案や、意識調査を行いながら、校内での日常生活をみていく実践をしました。「男だから、女だから」ということで子供たちの学習意欲を損なわれていることを発見し指導してきました。性別による区別を丹念に取り除いていくと、その子の個性、適性、能力に応じて活動できる生き生きとした子が増えてきました。

つまり一人一人の個性が尊重され、女子のみならず男子をも含めた個人の人権尊重教育にも関わっていくことがわかってきました。

そして、男女平等教育とは女性の権利を主張したり、異議申立てをするというだけではなく、人権尊重の基盤となる地味で堅実な実践活動なのだと教師も気付きはじめました。

2年目は、援業研究と共に環境づくりに力を注ぎました。

また「混合名簿」については、「名簿だけを混合にしたところで、根本的な不平等の解決にはならない」として、男女別名簿を工夫活用しながら、朝会や集会の並び方、ロッカーや作品掲示の順番を意識的に男女混合にしました。

その結果、男女別の並び方では男女の話し合いが少ないことや、

対面式　背の順にならんでいます。おかしくないね。ふつうだよね。

女性教育委員2名誕生

この度、北区教育委員に二名の女性が就任されました。教育委員会は5名の委員（1名は教育長）で組織されていますが、女性が2名になったのは初めてのことで、他の自治体からも注目されているところです。お2人に抱負をうかがってみました。

北島さん（左）　鵜沢さん（右）

生涯教育でも女性の参画を

北島裕子さん

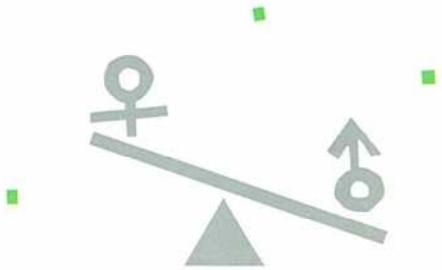
赤羽在住。
元都立忍岡高校教諭。
元アゼリアプラン推進区民会議委員。
エッセイストとしても活躍中。

教育委員として区政への女性の参画の割合を高めるだけでなく、本当の意味での仕事をしなければと、たいへん大きな責任を感じています。

日本も世界も社会は急激に変化していて、教育についても昔のままではいけないと思っています。

特集

変わる・変える



男女別出席簿の場合には、何事も男子優先の意識を植えつけ、また男子、女子という集団でとらえがちであることがわかりました。

ところが、男女混合にすると性別ではなくそれぞれの個性で児童を把握するようになってきました。ですから男女混合は確かに形式にすぎませんが、形式から入らなければ、男女平等教育、そして人権尊重教育の基礎は整っていかないのです。保護者の意識も、男女の役割分担について以前より柔軟に考えるようになったようです。

私ごとの経験で恐縮ですが私は家長たる父が全てを優先し、母は何事も後まわし、というごく普通の家庭に育ちました。ある時期、私は母が自分を主張せず、そんな立場に甘んじていること、父は思いやりのない人と考えて大変、歯がゆい思いをしたことがあるのです。しかし、個人的な問題ではなく、社会全体がお互いを尊重するようになっていなければならなかったのだ、と今しみじみ思います。

学校の現場では、常に不平等によって心を痛める子供の存在に気付くような実践をしなければ、真の人権尊重の心は生まれてこないのです。そして、この事はより多くの人々に気付いてもらうことが大切です。本校の実践を保護者、地域の方々に理解していただくために、保護者会や学校からの通信などによって報告をしていきました。

六年生を送る会
男女協力して挨拶を

昨年度は卒業式に男女平等教育の精神を生かしました。学事報告、卒業生台帳、児童の座席、卒業証書の授与の順番など、男女混合五十音順にしました。たまたま最初に呼ばれた卒業生が女子だったため、創立以来、初めて女子が卒業証書を読まれることになりました。

子供たちは堂々と明るく証書を受けとっていきました。その後、卒業生や転勤していった教職員から、「男女別の教育に戻ってしまったようで異和感を覚える」などという感想を聞きますと、男女平等教育の成果をみた思いがします。やはり男女平等を視点とした人権尊重教育が大事なのだと思います。

■

男女平等の視点で教育がなされるのは当然と皆気付きはじめていますが、長い日本の男女別役割意識の風土の中では、放っておいては改善されません。幼・小・中学校の連携も大切だと思います。今後、北区内でもこの動きが少しずつ広まっていくことを願っています。男女平等教育の定着化を深め、広める努力をしていきたいといわれる渡部校長先生に保護者も協力し、熱いエールをおくっていきたいものです。

入学式
新入生の歓迎も男女協力して

子どもをとりまく環境が変わってきて、学校だけでなく社会に出てからもマスメディアなどの影響が大きく、それをふまえて、これからの教育を男だから女だからとこだわらずに考えていかなければならないと思います。学校教育だけでなく、生涯教育でも女性が参画していける場を広げるため、与えられたチャンスを生かして努力していきたいと思います。

男だから女だからというのでなく自然体で

鵜沢八千代さん

中十条在住。
工務店を経営。
三児の母としてPTA活動も豊富に経験。

女性教育委員として期待されている責任の重さを感じています。教育界は女性が比較的公平に扱われている世界です。女性校長は北区には多くいらっしゃいますが、気負わず自然体で仕事をされ、美しい姿だと思います。

男だから女だからというのでなく、自然体で能力のある女性が世に出て、男性と対等に仕事ができる社会を作るため、子どもの時から本当の意味での男女平等の精神を身につけ、実社会に出た時、自然にそれが発揮できる子どもを育てる仕事のお手伝い、応援をしたいと思います。

親の介護をする最後の世代の私から、子の介護を受けない最初の世代となる私へのメッセージ。

平成22年に北区は高齢社会のピークを迎える。高齢者比率は28・7％と予測され、全国平均の21・2％を大きく上回る。人口にして8万2千人。4人に1人が65歳以上の高齢者となる。

問題は、少子化による核家族化の進行、女性の就労、結婚しない女と男など、社会情勢の急速な変化に家庭での介護力はますます衰える傾向にあることだ。世界に例を見ないスピードで進む高齢化の波をまともにかぶるのは私自身に他ならない。

●

北区民意識調査(平成4年)では老後も「働き続けたい(50・7％)」「趣味・スポーツ(48・2％)」(重複回答)と、積極的な生活を描いているが、誰もがポックリ逝く幸運を手にすることができない以上、やがて衰弱し、朽ち果てていく自分の肉体や精神と向き合って暮らさざるを得ないのが老後の世界であろう。

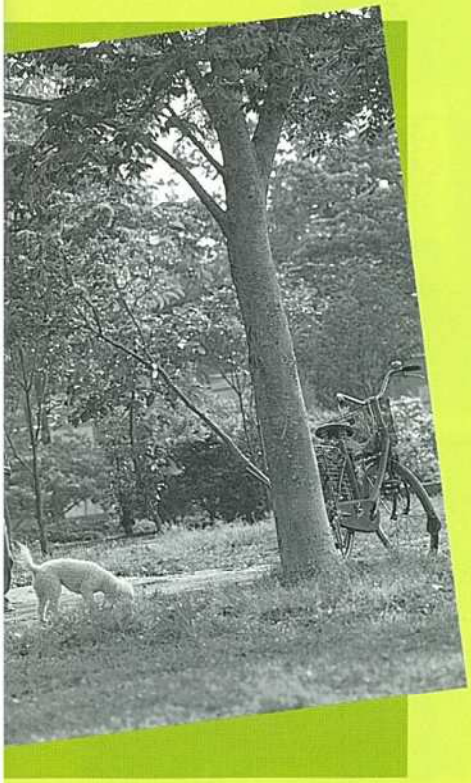
北区高齢者生活実態意向調査(平成2年)の報告に介護者の厳しい日常の一端が読み取れる。

グラフ①～③

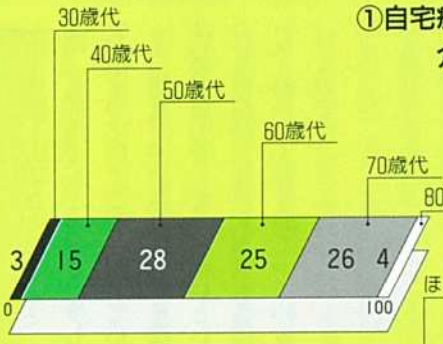
視力や聴力の衰えはもとより、物忘れがひどくなり、しもの始末も思うにまかせず、転べば簡単に骨折と、これみな高齢になればごくあたりまえのことだ。

その時、介護する家族に気がねしながら暮らすのだけはまっぴらだ。もっとも、家族がいればとしての話だが。

一方、施設介護を希望する人も多い。前述の北区高齢者生活実態意向調査でも50％の人が施設の確保を区に要望している。施設介護

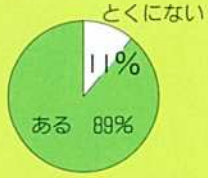


①自宅療養者を介護している方の年齢



②自宅療養者を介護している時間

③自宅療養者の介護で影響を感じること（3つ以内で回答）



「北区高齢者生活実態意向調査（H.2）」より

となると特別養護老人ホームへの入所である。北区の現状を見ると平成5年10月現在453人が入所し待機者は306人を数える。退所される方は少なく、存命中に入所できる保障はない。

在宅介護が主流になることだけは確かだ。

社会復帰援助係長、鳥海さんの話

「65歳になったからといって、急に寝たきりになるわけでなし、コスト（財政）を考えても行政の施策には限界がある。地域社会全体の介護力を高めていく事が重要。本当に介護を必要としている人は5%未満かな。残りの人は元気に暮らしている」

いざ寝込んだ時に家族も施設もあてにすることなく、住み慣れた家で暮らし続けることは可能なのだろうか。

訪問看護

十分な訪問看護が受けられれば在宅療養も可能になる。

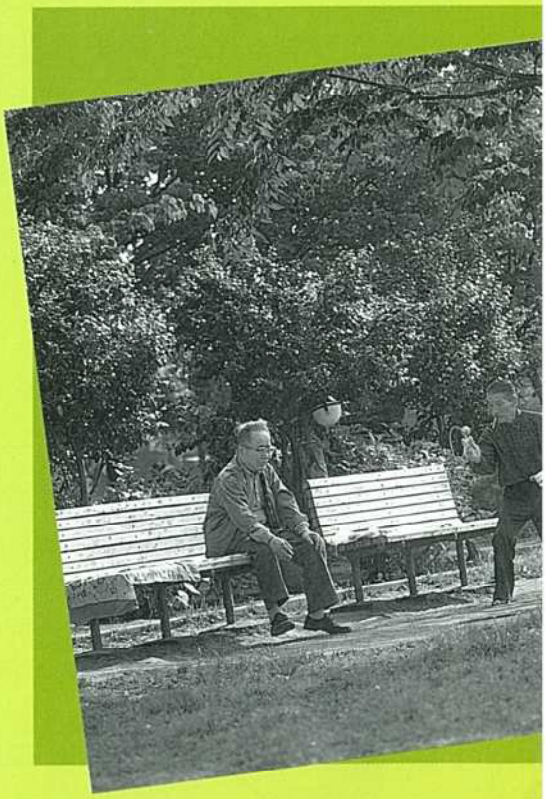
●区の社会復帰援助係では、保健所とともに訪問保健指導を担っている。看護婦、理学療法士、作業療法士を自宅に派遣し、在宅療養を支援している。老人保健法では40歳以上の寝たきり在宅療養者が対象だが、北区ではこの制限を事実上はずし、区長の承認により全ての区民がその対象となっている。

社会復帰援助係
☎3905・7115
王子保健所
☎3919・3101
赤羽保健所
☎3900・6176
滝野川保健所
☎3915・0186

●他に病院独自に実施している訪問看護と訪問看護ステーションによる訪問看護とがある。

訪問看護ステーションでは主治医の指示と本人の希望があれば、どの病院で治療を受けていても訪問看護を受けることができる。対象は65歳以上の寝たきり在宅療養者。

赤羽老人訪問看護ステーション
☎3901・7188



ホームヘルパー

買物・洗濯・食事など、身の回りの世話なくして在宅介護はありえない。

●北区でホームヘルパー派遣事業を実施しているのは福祉事務所の家庭奉仕係だ。係長の早川さんは「区職員のヘルパー35人といっしょに大活躍しているのが77人の登録ヘルパー。その中心となっているのが、3級のホームヘルパー講習を終了した区民の方々です。

区では人材確保のため東京でもいち早くこの制度を取り入れました。区民参加の福祉が高齢社会での重要な役割を担っていくと思います」

やはりポイントは地域社会の介護力をつけることにあるようだ。

区では福祉事務所のほか在宅介護支援センターでもホームヘルパー派遣事業を実施している。

王子・滝野川福祉事務所
☎3908・1111
赤羽福祉事務所
☎3903・4161
在宅介護支援センター
浮間さくら荘
☎3558・3689
滝野川つつじ荘
☎5390・6009

●他に非営利でホームヘルプサービスを実施している民間団体

友愛ホームサービス
☎3907・9492
シルバー人材センター
☎3914・1861
たすけあいワーカーズひよこ
☎3905・2563

●また、ボランティアセンターをとりまく人の輪と、幅広い活動は地域の福祉資源そのものだ。

ボランティアセンター
☎3908・6800

総合相談

介護用ベッドや風呂場のてすり、入浴サービス、医療費の助成、緊急通報装置など、人それぞれのかかえる悩みはさまざまだ。

福祉のメニューは個々の問題に対応できるよう実に多種多様であるが、その分、担当窓口もわかりにくい。しかし、役所は面倒で…などと言ってはいられない。

●北区役所第一庁舎一階の福祉課に福祉相談コーナーがある。相談内容に応じて担当窓口を案内している。

福祉相談コーナー
☎3900・1294

●北区の特別養護老人ホーム「さくら荘」と「つつじ荘」に設置された在宅介護支援センター。介護を要する状態になっても住み慣れた自宅で暮らしたいと願う高齢者のための総合相談センターだ。さくら荘のスタッフは、社会福祉士、看護婦、介護福祉士の3人で、その道の専門職。あふれる情報と経験、熱意を持って相談に訪れる人を待っている。

住宅改造から介護相談、施設入所、医療など、在宅介護を継続させるための相談、そして前述のヘルパー派遣まで、在宅介護のよろず相談窓口といえる。

「一人で悩んでいないで、とにかく話を聞かせて下さい。電話でも訪問でもできる限りの対応をします」と窓口職員の言葉に期待がふくらんだ。

住宅介護支援センター
浮間さくら荘
☎3158・3689
滝野川つつじ荘
☎5390・6009

●民生委員は社会福祉の相談に応じ助言してくれる。自分の地域を受け持つ民生委員の方と面識を深めておけば心強い。

各地区民生委員名の問い合わせは北区役所・福祉事務所へ

●「友愛ホーム」や「ボランティアセンター」などを運営する社会福祉協議会は、民間団体ならではのフットワークのよさと自由な発想で多彩な活動に取り組んでいる。全国組織で情報量も多く相談窓口としては心強い存在だ。

「ご希望があればご自宅に伺っての相談も受けます。必要に応じてすばやく対応できるサービスをいつも心がけています。今はお風呂の研究中」と「友愛ホーム」の松田さん。

北区社会福祉協議会
☎3906・2352

情報

どんなに良い制度でも知らなければ無いのと同じである。まず「わたしの便利帳」「高齢者福祉の手引」を熟読しよう。図書館や北区庁舎の資料コーナーの利用も一案。

「北区ニュース」は、居ながらにして情報を手にいれられる最も身近なメディアだ。ふんだんに提供されている情報を活用しよう。

……

寝込んで二週間以内に死ぬひとが4割、そして6割の人が一ヵ月以内に亡くなるというデータがある。あんがいポックリ逝けるかもしれない。

しかし、北区地域保健福祉計画によれば、要援護高齢者は高齢者の26・2%の範囲としており、平成22年にはその数2万1千人と推計される。楽観してもいられない。社会の介護力とは区民としての私自身の社会参加のありようにかかってくる。16年後、北区で安心して豊かに暮らすための選択はもう始まっている。

（取材・記事　田中和子）

聞き書き自分史

「身体の中に残るものを学んでいただきたい」

閑崎　ひさ女さん

（赤羽西２丁目）

赤羽西1丁目、旅館だった自宅を稽古所に改造して、「舞」を教えていらっしゃる閑崎ひさ女さんをお訪ねした。出迎えてくださった時の軽やかな動きは、とてもお孫さんのいる年齢には見えない。

ひさ女さんは、今より20年前、幼い頃から続けていた日本舞踊に一つ物足りないものを感じていたとき、地唄舞に出会った。地唄舞は、上方で芸妓さんが格調高いお座敷で舞う伝統芸。その動作を切りつめた静かな舞は、能楽に通じるものらしい。指の先、髪の先まで神経を使い、心をこめて登場人物になりきる。静かな動きの中に乙女から、母性・女の情念までを舞い分ける。日々の稽古の上に、どんな勉強でこのような力を発揮できるのかお聞きしたところ「ハイハイをしていた頃から音楽に身体を動かし、目を輝かしたそうです。きっと天性のものでしょう」と。

そんなひさ女さんも出産・子育ての時期は、稽古はお休みした。子供たちには、あわてず、怒らずにゆっくりと見守る。その様子は、今のお弟子さんたちを指導する姿と重なる。

ひさ女さんの教場では、一曲の完成までの指導に、倍の時間をかける。一曲々を仕上げる間に、技術を覚え、内側から磨きをかける。身体の中に財産となるものを残してもらうためだ。技で裏打ちされた「舞」は、確かな形で残る。高齢化社会に向けて、幾つになっても楽しめる技術と言えよう。

地唄舞、新座敷舞（地唄舞の技をベースに小唄や端唄、歌謡曲、演歌を気品ある舞に仕上げたもの）と研究を重ねて、多くのお弟子さんの育成に励んでいる。そして、その豊かな表現力は、観客に多大なる楽しみを与えて下さっている。

プロフィール

幼児より日舞を習い９歳で初舞台

1965年　地唄舞に魅せられ神崎流分家家元神崎ひで女師に師事

1970年　家元若月志扇となり若月流新座敷舞を創流

1973年　神崎流師範となる。その後、ひで女師が新たに閑崎流を創設されたので閑崎ひさ女となる

INFORMATION

平成5年度女性政策課の主な実施事業

平成5年5月～7月（3回開催）
PTA広報誌づくり講座
8月　平和祈念のタベ
大江健三郎氏講演と大江光さんの音楽
10月　アゼリアプラン推進状況調査の実施
推進区民会議、庁内推進会議と合同実施
平成6年1月　女性団体の登録受付
132団体登録
2月　北区女性団体リーダー会議
講演とシンポジウム・120名参加
3月　北区婦人週間開催
記念講座、山口みつ子氏
講演と音楽のつどい、みなみらんぼう氏
講演と森田克子さんの音楽
映画祭&テレジン収容所の小さな画家たち展

北区女性団体リーダー会議
第2期アゼリアプラン推進区民会議委員の紹介

大江健三郎氏

平成6年度の新たな事業予定

北区女性史の作成
北区で生活した女性たちの生き方から、女性問題の歴史的背景を探り、区民参画によって女性史の作成を始めます。

女性の海外派遣
昨年、友好都市の提携をした北京市宣武区へ女性友好使節団を派遣します。

平成6年度の主な女性センター事業

第3期女性大学の開校
9月～7年2月予定

各種講座の開催
女性学入門講座、女性セミナー（再就職講座・カウンセリング講座等）、男性セミナー、ワープロ講座等

女性センターまつりの開催
11月開催予定

第2期アゼリアプラン推進区民会議委員改選

◎白井典子	北区代表監査委員
○井上孝代	東京外国語大学助教授
山田昌弘	東京学芸大学助教授
厚美　薫	フリーライター
小野木良子	やばた生活学校
片桐俊一	担い手千人会議 運営委員長
豊田栄子	ボランティア団体役員
根木真代	アゼリア会
真庭成子	民生・児童委員
渡部淳子	十条台小学校長
山崎幹雄	総務部長
鈴木省五	女性政策課長

（◎会長　○副会長）

編集後記

女性の自立はまず〝心〟の自立から。常日頃そう思っていました。区の女性問題情報誌作りに参加して、改めてそれを強く感じるようになりました。

たくさんの問題とそれに関する資料とで膨らんだファイルの中から、自分の指先で選んだ出会いを信じて、それを追い駆けて行く姿勢を忘れたくありません。これからもずっといろいろな勉強をしたいと思います。それらの一つ一つが、自分への無形の投資となるように。（森下）

行動力豊かな編集委員の仲間に囲まれて、ポカンとばかりして居られず、埃のかぶった一眼レフを取り出してファインダーを覗いて見ました。果たしてレンズの向こう側には、時代とともに変わりつつあるはつらつとした女性の姿が見えました。

結婚があって、子育てがあって、忙しくはある毎日ですが、自分のための人とのふれあいが少なかったように思います。アゼリア編集会議で活発な意見を聞き、刺激を受けて、いろいろと考える今日この頃です。（小田原）

平成元年度に創刊した「女性だより・アゼリア」ですが、男性も視野に入れた情報誌にしていこうと、今回から「女性だより」の文字をとりました。

このように企画、内容、装丁を一新した第8号ですが、編集作業も20数回に及ぶ会議、取材そして執筆を5名の区民に手弁当でお受けいただきました。もちろん表紙のお弁当も編集委員の手づくりです。（田口）

アゼリア　8号
発行／東京都北区総務部女性政策課
☎3908-1111(内)2220・2221
企画・編集／アゼリア編集委員会
区民編集委員
小田原淑子・館江順子・
田中和子・堀内美智子・
森下えつ子
制作協力／鯨吼社

正　誤　表

施設の名称を誤って表記いたしました。
謹んでお詫び申し上げ、下表のように
訂正いたします。

訂正箇所	11頁下段・12頁中段
正	上中里つつじ荘
誤	滝野川つつじ荘